

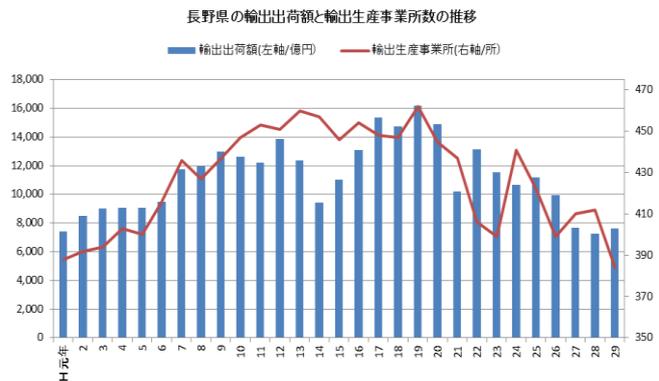
～飯伊地域の輸出と港～

豊橋港、蒲郡港、田原港、西浦港をあわせて「三河港」となり、愛知県の管理港となったのは昭和 37 年。蒲郡港は明治末期から東三河地域及び長野県南部の伊那谷に栄えた製糸業に対する石炭補給港として活用されたといわれ、「三遠南信地域の港」とも言える歴史がある。今回は、長野県や当地域の輸出をしてみる。

1. 長野県の輸出出荷額と輸出生産事業所数の推移

長野県は毎年、「輸出生産実態調査結果報告書」を公表している。

これは、日本標準産業分類による大分類 E - 製造業を主業とする事業所(国及び公共企業体に属するものを除く)のうち、従業員 10 人以上を有する 3,200 事業所で、輸出向製品を製造又は加工している事業所を調査の対象としており、各年 12 月 31 日現在の事業所数や従業員数、直接輸出額、間接輸出額及び輸出向加工賃や、それらの合計である輸出出荷額などを集計したものである。



平成 29 年の同調査によると、平成 29 年の長野県全体の輸出出荷額は、7,642 億 6,747 万円で、前年に比べ 5.1% 増加している。とはいうものの、リーマンショック後の平成 21 年に比べても少なく、遡る 3 年ほど平成元年程度の水準で推移している。

また、輸出生産事業所数は 384 所で、平成 28 年の 412 所から 28 所減少している。

2. 飯伊地区の輸出出荷額と輸出生産事業所数の推移

同調査により、飯伊地区の輸出出荷額と輸出生産事業所数の推移を見ると、平成 29 年の輸出出荷額は、344 億 0,876 万円で、前年に比べ 13.8% 増加している。

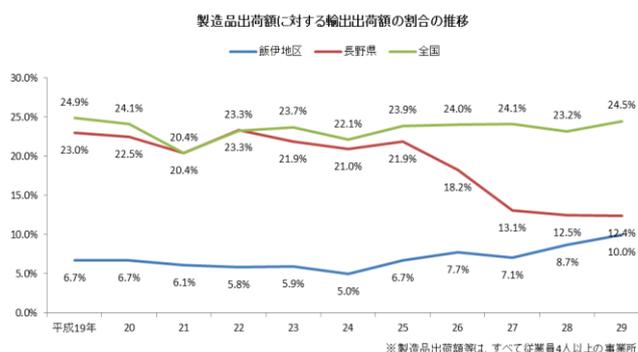
また、当地区の輸出生産事業所数は 43 所で、平成 28 年の 39 所から 4 所増加している。



同調査によれば、当地域では、県全体の趨勢と異なり、リーマンショック以後も輸出出荷額、輸出事業者数ともに増加傾向にある。

3. 製造品出荷額等に対する輸出出荷額の割合

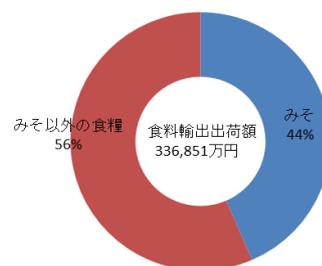
右のグラフは、平成 19 年以降の製造品出荷額等に対する輸出出荷額の割合を、全国、長野県、飯伊地区で見たものだが、当地域では平成 25 年以降、水準はさほどではないもの上昇基調にあり、当地域の製造業事業者にとって輸出も重要な柱になりつつある様子が窺える。



6. 長野県の「みそ」の輸出

平成 29 年の同調査によると、長野県では、電子、電気、情報を合わせた電気 3 種の輸出出荷額が全体の 41.4% を占め、次いで生産用機械器具が 33.2%、輸送用機械器具が 6.2% などとなっているが、食品など「他の業種」の輸出出荷額も、平成元年に全体の輸出出荷額の 6.0% を占めるに過ぎなかったものが、平成 29 年には 10.8% を占めるまでになっている。今回は長野県の生産額が全国の 49.0% (経済産業省「工業統計」2018 年) を占める「みそ」の輸出をしてみる。

長野県の食糧の輸出出荷額 (みそ・みそ以外・平成29年)

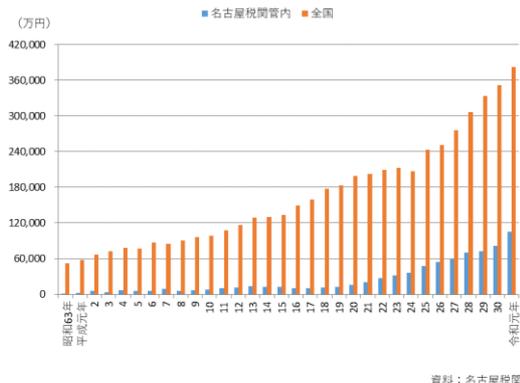


平成 29 年の同調査によると、長野県のみその輸出出荷額は 146,577 万円で、食料全体 (飲料除く) の輸出出荷額の 44% を占める。

7. 貿易統計に見る「みそ」の輸出相手国

ご案内の通り、政府が平成 19 年に策定した「わが国農林水産物・食品の総合的な輸出戦略」において、「みそ」も加工食品輸出の重点個別品目となっている。こうした中、財務省の貿易統計によれば、みその輸出は、2013 年に日本食がユネスコ無形文化遺産に登録されたことや、世界的な健康ブームもあり、増加傾向にある。また、同統計によれば、長野県や愛知県など「みそ」生産で名高い地域を管轄する名古屋税関が、輸出数量・輸出金額とも全国シェアトップとなっている。

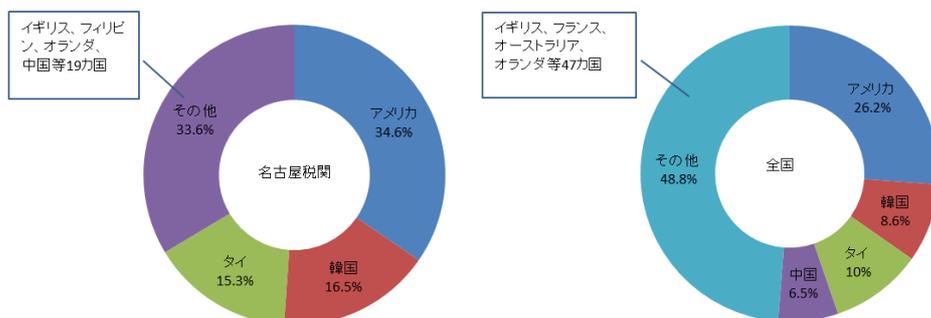
みその輸出金額の推移



下記グラフは、同統計によって「みそ」の輸出相手国を見たものだが、全国、名古屋税関管内ともにアメリカがトップとなっている。アメリカでは和食レストランや日系スーパーがチェーン展開をしていることの影響が大きいという。次いで、古くから在留邦人が多くみそに馴染みのあるといわれる韓国、現地に加工工場があるタイなどが続く。2019 年上半期において、名古屋税関管内では中国向け輸出が少ないが、これは東日本大震災に伴う諸外国、地域の輸出規制措置により、中国が長野県を含む 9 都県のすべての

食品、飼料輸入を停止していることの影響が考えられるという。

「みそ」輸出相手国（2019年上半期）

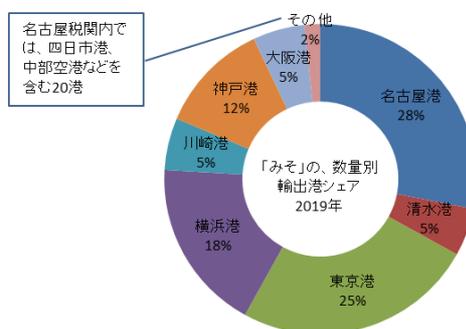


資料：名古屋税関

8、「みそ」の輸出港

みそは長期保存が可能なため、海港からコンテナ輸送により輸出されることが多いが、港別に2019年の輸出数量を見ると、名古屋港のシェアが高い。

2018年まで東京港の輸出数量が最も多かったものが、2019年に名古屋港の輸出数量が最も多くなったのだが、これには輸送コストの面から長野県の輸出が名古屋港に集約された等の事情があるという。



資料：名古屋税関

また、みその原料となる大豆の、平成29年度の国内の需要量は約357万tのうち国産大豆は約25万tで自給率は7%。サラダ油などの原料となる油糧用を除いて食品用（需要量約99万t）に限ると、自給率は25%となっており、原料の輸入業者の面もある。

目下のところ三河港はみその輸出に利用されていないようだが、三遠南信自動車道の開通があったとき、それがどのように変化するのか注目される。

（※図表出所は、特に表記のない限り長野県輸出生産実態調査結果報告書）